

朗読指導者 養成講座

2021年
9月開講

～朗読を深める～

Rodoku

講師陣 (講義日程順 敬称略)



加賀美幸子



山崎 広子



野田 尚史



渡辺 考



吉川 精一



中西 和久

作品を理解し、聞き手の心に届く朗読を深めることを目的としています。
朗読者だけでなく、日々コミュニケーションを必要とされる職業の方、
また、日常生活における円滑な人間関係を目指す方にも役立ちます。
ご一緒に、朗読力アップを目指して勉強しませんか。



NPO日本朗読文化協会

講師プロフィール



加賀美幸子

1940年生まれ。1963年NHK入局。在局中は、報道、教育、教養、音楽芸能番組等々幅広く担当し、女性初の理事待遇となる。現在も、ライフワークである古典の原文朗読を中心に、講演、執筆など様々な活動を展開。NHK会長賞、ダイヤモンドレディー賞、前島（密）賞、徳川夢声市民賞など受賞。「NPO日本朗読文化協会」名誉会長、「千葉市男女共同参画センター」名誉館長、「放送人の会」理事、「NHK文化センター」講師、他。



山崎 広子

国立音楽大学卒業後、音声生理学と心理学を学び、音響心理学、知覚認知心理学をベースに音声と脳の間を研究。3万例以上の声の分析を経て、脳の発声回路から発声障害や吃音を完治に導く方法論を確立。政治家やビジネスパーソンへの声のコンサルティング、ヴォイストレーナーの育成等を行う。著書は「8割の人は自分の声が嫌い」（角川新書）、「声のサイエンス」（NHK出版新書）他。ラジオや講演で声の素晴らしさを伝え続けている。一般社団法人「声・脳・教育研究所」代表。



野田 尚史

現職：日本大学文理学部教授
生まれ：1956年、石川県金沢市
学歴：大阪外国語大学イスパニア語学科卒業、同大学大学院修士課程日本語学専攻修了、博士（言語学）
職歴：筑波大学講師、大阪府立大学助教授・教授、国立国語研究所教授
著書：『日本語を分析するレッスン』（共著、大修館書店、2017年）、『なぜ伝わらない、その日本語』（岩波書店、2005年）、『日本語を話すトレーニング』（共著、ひつじ書房、2004年）など。



渡辺 考

テレビディレクター。1966年東京都生まれ。早稲田大学政経学部卒。1990年NHK入局、主にETV特集、NHKスペシャルを担当。橋田賞、放送文化基金賞などを受賞。ギャラクシー受賞は9度にわたる。映画『father』を監督。著書に『戦場で書く一火野葦平と従軍作家たち』（NHK出版）、『特攻隊振武寮』（朝日新聞出版）ほか多数。『ゲンバクとよばれた少年』（講談社）は平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞。近著に『まなごしの力』（かもがわ出版）、『少女たちがみつめた長崎』（書誌侃侃房）。



吉川 精一

昭和16年1月30日、東京蒲田生まれ。傘寿80歳。昭和38年3月早稲田大学文学部演劇専修卒業。同年4月NHKアナウンサー。尾道、福山、青森、仙台、名古屋の各放送局勤務を経て、昭和56年7月アナウンス室勤務。主な担当番組『昼のプレゼント』『連想ゲーム』『NHKのだ自慢』『将棋名人戦』『紅白歌合戦総合司会』など。平成6年7月日本語センター出向。『結婚披露宴の司会』講座担当。平成10年1月定年退職。同年9月念願の歌手デビュー。持ち歌14曲中自作作詞6曲。



中西 和久

京楽座主宰。俳優・演出家。'76年より俳優小沢昭一氏に師事し芸能座で俳優修業。キグレサーカスでクラウン修業。『しのだづま考』の演技で'91年度文化庁芸術祭賞受賞。同作品で韓国主要都市、東欧2カ国の国際演劇祭、モスクワ芸術座公演等で好評を博す。エカテリンブルグ国際演劇祭特別賞受賞。'98年新国立劇場開場記念賛助公演を務める。講演を二代神田山陽に、説経節を二代目若松若太夫に、江戸里神楽を松本源之助に師事。NHK芸術劇場で『しのだづま考』『山椒大夫考』放映。



**2021年
9月開講**

～朗読を深める～ 朗読指導者養成講座

募 集 要 項

<p>主 旨</p>	<p>この講座は朗読者に求められる幅広い人間性と朗読指導者としての高いレベルの知識及び指導法を体得することを目指して行うものであり、講座終了後、「修了証」を授与します。</p> <p>朗読の喜びや力を如何に伝えていくか。また、聞く人の心に届く朗読とはどのようなものか。その力を朗読者のものとするためには、朗読者自身の豊かな人間性と広い意味での朗読のノウハウを身に着けることが必要とされます。それらを総合的に学び、朗読を深めるのがこの講座です。</p> <p>朗読は人と人とのコミュニケーション力を付ける大切なスキルの一つです。朗読の基礎、表現法を学ぶことによって、話し方、声の出し方、発音、声の調子などあなた自身の表現も深まります。</p> <p>朗読はもとより、学校での生徒に良く伝わる授業、また、ビジネスの場での説得力あるプレゼンテーションなどの力を上げる事が出来ます。また、言葉の専門である各講師の指導を体験することによって、指導法を学ぶこともできます。</p> <p>NPO日本朗読文化協会はこの講座で培われた「朗読者」を通じて、広く社会貢献できることを目標としています。</p>
<p>講座内容</p>	<p>講座は1年間（月1回）を通して行われます。</p> <p>I：「朗読とは」加賀美幸子／9月 朗読とは何かを問うもので、朗読の概念、哲学を学びます。</p> <p>II：「基礎力」①山崎広子／10月、11月 ②野田尚史／12月、2022年1月 ①音声学を基にし、朗読の元になる発声、朗読者自身が自分の声を知り、それを使いこなせるようにします。 ②言葉の基礎を基に、聞き手に伝えるには何が必要か、伝わる日本語を学びます。</p> <p>III：「表現力」①渡辺考 ②吉川精一 ③中西和久 2022年2月～7月（各2か月） 魅力的な表現とはどのようなものか。また、そのためにはどの様にすれば良いか。演出、司会、ナレーション、及び舞台表現の立場からの指導を受けます。</p> <p>まとめ：「朗読論」の確認と発表 加賀美幸子及び講座担当講師／2022年8月 これまで学んできたことの総括と受講者の朗読発表</p>

講座日程	2021年9月～2022年8月 月1回第4土曜日14時～16時 講義時間120分
募集対象	①朗読活動の指導者を目指す方 ②朗読活動の更なる進歩を目指す方 ③コミュニケーション技術の向上のために朗読を学びたい方 全ての講義に出席可能な方
受講料	協会員：60,000円 一般：72,000円 なお、支払い後の受講料返金には応じかねますのでご了承ください。
定員	20名（書類選考あり）
講座会場	東京都港区芝公園2-6-3 芝公園フロントタワー 3階
募集日時	2021年7月1日(木)～7月30日(金)必着 8月中旬に受講の可否をお知らせします。
「修了証」の授与について	1) 講座終了後、全講義出席の受講者には「修了証」を授与します。 2) 止むを得ず欠席した講義は次年度にのみ再受講することができます。
申込方法	①ホームページから申し込みをされる場合 入力フォームからお申し込み下さい。 ②FAX または郵送で申し込みをされる場合 7ページの募集要項の申込書に記載の上、下記住所に7月30日（必着）までに郵送、またはFAXして下さい。 FAXでのお申し込み：03-6435-8356 郵送でのお申し込み：〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2 NPO日本朗読文化協会 「朗読指導者養成講座」係宛

お問合せ



NPO日本朗読文化協会

〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2
TEL：03-6435-8355 FAX：03-6435-8356
E-mail: npo-rodoku@rodoku.org <http://www.rodoku.org/>



講座日程

Rodok

講座日／講師名 講義名／概要

01

9月25日
加賀美幸子

朗読とは

その道に入っても、とどまったままの人、行く道を探し続ける人、決まりの無い世界の中で、何かをしっかりと掴む人、それが何か…ハウトゥーではなく、見えない聞こえないけれど、生き方・在り方が問われる朗読です。

02

10月23日
山崎 広子

声を知る～声と脳と身体不思議～

まず声帯、共鳴、呼吸、脳の発声回路などの基礎知識をお話します。
〈声帯原音から声へ／声は究極の個人情報／聴覚と声／呼吸法の検証／声は脳から身体に影響する／脳が声を作り、声が脳を作る〉など。

03

11月27日
山崎 広子

オーセンティック・ヴォイスと声の心理学

前半は声と心のお話。後半は質疑応答で理解を深めます。
〈自分の声を嫌う人が多い理由／声は心をどう動かすか／本物の声＝オーセンティック・ヴォイスとは／人はその声のように心身が構築される〉など。

04

12月25日
野田 尚史

日本語のあいまい文

「大きなおもちゃを入れてある箱」は「大きなおもちゃ」という意味か「大きな箱」という意味かがあいまいです。このような「あいまい文」はどんな構造を持っていて、どのようなときに生じるのかを考えます。

05

2022年
1月22日
野田 尚史

言語による配慮表現の違い

相手に対してお礼を言ったり、丁寧に述べたり、親しさを表したりする「配慮表現」は、言語によってどんなときにどのように使うのが違います。日本語と他の言語の配慮表現がどのように違うのかを考えます。

06

2月26日
渡辺 考

「まなざしの力」～魅力あふれる人々への人間讃歌～

渡辺の番組のメインはヒューマンドキュメンタリー。30年のディレクター生活、取材活動で出会った魅力的な人々を紹介し、彼ら彼女らの力強い人生、目に宿った力について深掘りする。参考テキストとして渡辺著の「まなざしの力」を使いたい。

07

3月26日
渡辺 考

戦争がもたらしたもの

渡辺がこれまで手がけてきた番組の大きなテーマは「戦争」。不条理な暴力が多くの人たちを傷つけ、いわれなき悲惨な運命に追い込んだ。「特攻隊」や「BC級戦犯」「長崎の原爆」など、取材を通じて見えた戦争の悲惨を語る。

08	<p>4月23日 吉川 精一</p>	<p>魅力的な表現は十人十色～自分発見のための講座～ 一人一人のスピーチもしくは朗読。私が主観的な感想、批評、批判、評価する。時に暴論もあり。共感か反発かいずれもよし。その反応から真実が浮き彫りにされる。皆さんの『テーゼ』に私は『アンチテーゼ』を照射する。そこから皆さんの『総合』が生まれる。講座はその格闘の証だ。</p>
09	<p>5月28日 吉川 精一</p>	<p>地図のない、思考錯誤の旅 ～『地の文』の『科白化』。『科白』の『地の文』化を目指す～ 井上ひさしさんの『せりふ集』から私が抜粋し10編ほどの『せりふ』を皆さんには自由自在、縦横無尽に操ってほしい。最終的に発見、確認、納得するのはあなた自身です。気づき、引き出し、生かす、私はそのためのきっかけ、補助線引きのお手伝いができれば幸いです。</p>
10	<p>6月25日 中西 和久</p>	<p>「朗読のある風景～芸能という沃野に咲く花」 日本芸能史の中の「朗読」の系譜。朗読は聴衆の想像力を信頼して初めて花開く芸能の一分野である。講談『鉢の木』をテキストに、受講生は実戦形式で不思議な日本語を体験することになる。</p>
11	<p>7月23日 中西 和久</p>	<p>「朗読のある風景～芸能という沃野に咲く花」 「朗読」と「語り」の体験講座。森鴎外『山椒大夫』と説経節「さんせう太夫」をテキストに不思議な日本語の世界を体験する。説経浄瑠璃「山椒太夫」より「親子対面の段」を講師が披露する。</p>
12	<p>8月27日 加賀美幸子</p>	<p>まとめ それぞれの「朗読論」の確認と発表</p>

※注 コロナ感染状況により、講座日程が変更されることがあります。

Rodoku

【受講申込書】

フリガナ 氏名		年齢	歳
職業	役職などできれば具体的に		
連絡先	住所		
	電話	携帯	
	メールアドレス		

【朗読活動経験】

1.あり(具体的に)

2.なし

【本講座への思い】

【受講後の活動予定】

